

令和 6 年度学校評価報告書

令和 7 年（2025年） 3 月18日

北海道教育委員会教育長 様

北海道有朋高等学校長 印

次のとおり令和 6 年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

2 つの柱「落ち着いたきのある学校生活～生徒にとって、教職員にとって」、「目標を明確にした指導～生徒の資質・能力の向上と希望進路の実現」と 2 つの力「生徒を理解する力」、「危機管理能力」を意識した教育活動の徹底

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	○文部科学省の「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」2 年目、研究事業の実施を通して学校経営への参画意識を醸成し、組織の活性化が図られた。 ○教育活動の状況について適切に評価・検証し、単位修得率向上につながる継続的な改善として「I C T」の効果的な活用の研究が促進された。 ○学校 H P や X（旧 Twitter）を随時更新するとともに、学校説明会や就学相談など学校情報の積極的な発信が成果を上げた。 ●通信制においては、近年、在籍生徒数及び受講生徒数の大幅な増加が見受けられ、今後も同様の状況が想定される。 ●教育活動について適切に評価・検証し、改善に努めていく必要がある。	○十分達成できており、改善の方策も適切である。 ・「落ち着いたきのある学校生活」と「目標を明確にした指導」とについて、学校全体としての取組が、協力校との連携においてさらに強化されることを期待する。 ・文科省研究事業の実践を通し、教職員の学校経営への参画意識が高まったことが伝わってきた。 ・先生方が生徒一人一人の面倒を見てくれて、生徒が頑張っている姿が地域で高い評価を得ており、近年の入学者増に繋がっていると思われる。 ・一方で、生徒数の増加に伴う教育の質の維持が懸念される。
改善方策	・国や道の動向を踏まえた計画的、系統的な研修の充実による教員の資質の向上 ・H P の情報や学校説明会の充実、学校広報誌の活用など正確な情報発信の促進 ・通信制、単位制、遠隔授業配信センターの三者が相互連携した円滑な教育活動の推進 ・文部科学省研究事業の実践を通した、学校課題の改善の加速 ・学校行事の積極的な案内など保護者や地域住民に対する教育活動公開の促進	
学習指導	○文科省の研究事業費を活用し、学習指導員を配置し、個別の学習支援の充実を図った。 ○生徒の興味・関心に応じた多様な科目の開設等、教育課程を適切に編成・実施した。 ○きめ細かな履修計画支援、通信制・単位制それぞれの趣旨を活かした個々の能力や適性に応じた指導に努めた。 ●生徒数増加に伴う業務量増加により、きめ細かな対応を行うための指導方法の改善等、体制整備が必要である。 ●主体的で対話的な深い学びの視点から、より一層授業改善を促進する必要がある。	○概ね適正に評価されている。 ・多様な生徒に対するきめ細かな学習指導の実践に感謝するとともに、継続的に I C T が活用されることを期待する。 ・授業における I C T 機器の活用について、今後、具体的な実践例などを報告いただきたい。 ・学び直しの必要な生徒に対する手厚い指導を、今後も継続的にお願いしたい。
改善方策	・新学習指導要領に基づいた教育課程の適切な管理 ・公開授業や合評会の実施を通して、I C T 機器の活用を含めた授業改善に関する研究を推進 ・文部科学省研究事業の実践により、多様な生徒の学習ニーズに応じた学習支援を推進	

生徒指導	○様々な課題を抱える生徒が落ち着いた学校生活を送れるよう、生徒個々の実態に合わせた粘り強い指導を行ってきた。 ○生徒会活動やHR活動、部活動等、生徒の自主的・自発的な活動の促進に努めた。 ○SCやSSWとの連携を図った教育相談により、生徒理解が促進されている。 ○サポートステーションとの連携が深まり、就学支援に関して成果を上げた。 ●基本的生活習慣や規範意識の育成に向けた指導の一層の充実が必要である。 ●生徒の自立と社会参加につながる教育活動の一層の充実を図る必要がある。	○十分達成できており、改善の方策も適切である。 ・SCやSSW、若者サポートステーションとの連携が図られており、充実した取組が行われ、高く評価できる。 ・地域貢献を意識したボランティア活動の充実により、札幌市民憲章実践優良団体として表彰されたことは、大変喜ばしいことである。今後も、継続的な取組を期待する。 ・学校行事を地域に開放し、有朋高校の良さを多くの地域住民に知ってもらうことが肝要と考える。
改善方策	・基本的生活習慣や規範意識の育成に関する共通理解の更なる促進 ・SCやSSWの一層の活用等、教育相談の充実に向けた組織体制の強化 ・日常的な連絡等、家庭や関係機関との連携の継続 ・特別な支援を要する生徒等、多様な生徒に対する指導の在り方に関する研修 ・自主的、自発的な生徒会活動、HR活動、部活動、ボランティア活動等の充実	
進路指導	○キャリア教育の視点に立った指導体制づくりと教員の意識改善に努めた。 ○キャリアアドバンスツアー、キャリアクエスト、インターンシップ等が軌道に乗り望ましい職業観・勤労観の育成が推進された。 ●多様な進路に対応した指導の一層の充実を図る必要がある。	○概ね適正に評価されている。 ・キャリアガイダンス部については、その成果が数値的にも現れており、キャリア教育の視点に立った指導体制作りは高く評価できる。 ・ガイダンス機能の充実について、引き続き重点的に取り組んでほしい。
改善方策	・キャリア教育の全体計画の作成と計画に基づいた取組の推進（総合的な探求の時間及び特別活動との関連、科目履修指導との連携） ・進路希望実現までのプロセスを早期に理解させ積極的に取り組ませる指導の推進及び関係機関との連携	
健康・安全指導	○健康安全に関する通単合同の校内研修会の実施、生徒対象の講話や講習会等を通して、生徒自ら健康・安全を守る実践力の育成に努めた。 ○学校保健・安全計画に基づいた組織的・計画的な指導の充実を目指し、学校保健委員会及び防災委員会の機能を強化し、全課程の合同防災訓練を実施した。 ●体育的行事の充実や運動部活動の加入促進等、運動に親しみ体力の向上を図る指導を一層充実させる必要がある。	○十分達成できており、改善の方策も適切である。 ・健康や安全指導に対する学校としての取組には十分成果が見られる。 ・火災や地震をはじめとする自然災害への意識を高めさせ、地域ぐるみの防災訓練、啓蒙活動への取組を期待する。 ・今後も様々な講演や体験活動を通して命の大切さを実感させ、健やかな心の育成を促進する教育活動の充実に期待する。
改善方策	・防災意識を高める効果的なHR活動を利用した計画的な指導の工夫 ・授業やHRのみならず、体育健康に関する情報提供や運動部活動の充実など体力向上を図る取組の工夫	
公表方法	・ホームページで公表する。 ・PTA総会、学校評議員会、学校関係者評価委員会で公表する。	